【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第５区分
【発行日】平成17年10月27日(2005.10.27)

【公表番号】特表2003-535741(P2003-535741A)
【公表日】平成15年12月2日(2003.12.2)
【出願番号】特願2001-588042(P2001-588042)
【国際特許分類第７版】
　Ｂ６０Ｎ　3/00
　Ｂ６０Ｎ　3/10
【ＦＩ】
　Ｂ６０Ｎ　3/00　A
　Ｂ６０Ｎ　3/00　B
　Ｂ６０Ｎ　3/10　A

【手続補正書】
【提出日】平成16年2月26日(2004.2.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
特定のテーブル機能を有する１つのテーブル要素（１０）と、少なくとも１つの他のテーブル機能を有するもう１つのテーブル要素（１２）とを備え、２つの前記テーブル要素（１０、１２）が、少なくとも１つの関節（１８、２０）によって第１枢動軸（１４）の回りを相対的に回転可能であるとともに所定の位置に固定可能であり、かつ前記２つのテーブル要素（１０、１２）が、少なくとも１つの他の関節（２０、２２）によって他の枢動軸（１６）の回りを回転可能であるとともに所定の位置に固定可能であるような、乗物座席用のテーブル装置において、枢動軸（１４、１６）の各々は、前記テーブル装置の角部に配置された２つの関節（１８、２０；２０、２２）によって定められ、マルチジョイントとして作製された１つの関節（２０）が一方の枢動軸（１４）及び他方の枢動軸（１６）のいずれにも関連付けられていることを特徴とするテーブル装置。
【請求項２】
前記２つのテーブル要素（１０、１２）は、前記第１枢動軸（１４）によって互いにぴったりと重ねて配置される形態と、テーブル表面を２倍にして互いに隣り合うように水平に開放される形態とを有することができる請求項１に記載のテーブル装置。
【請求項３】
前記２つのテーブル要素（１０、１２）は、前記第２枢動軸（１６）によって相対的に傾斜するように調節可能であるとともに、固定手段（２４）により所定の傾斜位置に固定可能である請求項１又は２に記載のテーブル装置。
【請求項４】
２つの前記関節（１８、２０；２０、２２）が前記テーブル装置の角部に配置される請求項１～３のいずれか１項に記載のテーブル装置。
【請求項５】
前記関節（１８、２０、２２）は関節ハウジング（３０）を有し、該関節ハウジング（３０）は、少なくとも１つの関節（１８、２２）のために、複数の前記テーブル要素の１つ（１２）に取付けられている関連する係合部（３６）に着脱可能な固定部分（３２）を有する請求項１～４のいずれか１項に記載のテーブル装置。

【請求項６】
前記関節ハウジング（３０）の少なくとも１つが駆動装置（３８）を有し、前記駆動装置（３８）によって開放される１つのテーブル要素（１０）は、前記関節ハウジング（３０）を有する前記２つのテーブル要素（１０、１２）が平らなテーブル表面を形成するまで、前記他のテーブル要素（１２）の前記係合部（３６）について前記関節ハウジング（３０）を枢動させる請求項５に記載のテーブル装置。
【請求項７】
前記２つのテーブル要素（１０、１２）は、該２つのテーブル要素（１０、１２）の２つの前記枢動軸（１４、１６）に垂直に延びる共通の回転軸（４８）の回りを枢動可能である請求項１～６のいずれか１項に記載のテーブル装置。
【請求項８】
各々のテーブル要素（１０、１２）に相異なるテーブル機能部が関連付けられ、該相異なるテーブル機能部は、化粧領域（６０）、コンピューター装置（５６）、食べ物を保持できる手段（７２）、及び書物の保持領域（５４）の少なくとも１つを有する請求項１～７のいずれか１項に記載のテーブル装置。
【請求項９】
前記テーブル機能部の少なくともいくつかは、前記テーブル要素（１０、１２）のそれぞれに組み込まれるとともにカバー（６２、７０）によって覆われて、該カバー（６２、７０）が前記平らなテーブル表面の一部を形成する請求項８に記載のテーブル装置。
【請求項１０】
航空機の乗客座席に使用可能である、請求項１に記載のテーブル装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
請求項１の説明的部分に詳述されているように、各々の枢動軸は、テーブル装置の外周に配置された２つの関節によって画定され、故にマルチジョイントとして作製された１つの関節は双方の枢動軸に関連付けられ、多様なテーブル機能を２つのテーブル要素に組み込むことができる。それにより、テーブル要素に面するユーザーがどのテーブル要素を広げるかによって、個々に選択されたテーブル機能が作用し、必要ないテーブル機能は不能状態に維持される。このことはまた、テーブル要素が損傷され得ないという長所を有する。例として１つのテーブル要素を食事のために使用するときは、例えばコンピューター装置及びディスプレイをテーブル機能部として有する他のテーブル要素は、不使用位置に移動可能であり、それにより、テーブル要素が食べ残し等によってひっかかれたり傷つけられたりすることがない。従って、２つのテーブル要素は、互いにぴったりと重ねて配置される形態と、テーブル表面が２倍になるように互いに隣り合うように開放される形態とを有することができる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
本発明に係るテーブル装置の特に好適な実施形態の１つにおいては、テーブル機能部を各々のテーブル要素に対して、特に化粧領域、コンピューター装置、食べ物を保持できる手段、及び読書ができる領域の少なくとも１つの形態にて関連付けることができる。従って、各座席において上記のテーブル機能部を得るための追加的な取付け空間を必要とせずに、ただ１つのテーブル装置のみによって、多くの目的が達成され、座席のユーザーの快

適さが明瞭に高められる。テーブル装置が有するテーブル機能部に関するさらなる有利な構成においては、各機能部を有する装置は、実際のテーブル機能に悪影響を与えないように、平坦なテーブル表面の一部を形成するようなカバーによって覆われることができる。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】

関節１８、２０及び２２はいずれも、１つの関節ハウジング３０を有する。関節１８及び２２のいずれについても、それぞれ関連付けられた関節ハウジング３０は、２つの把持クリップ３４を備えた固定クランプ方式の固定部分３２を有する。関節ハウジング３０は、好ましくは１つの弾性の柔軟性プラスチック材料からなり、それにより、提供された接続ジャーナル方式の係合部３６に対して、固定部分３２によってスナップ式又はクリップ式に着脱可能である。係合部３６は、それぞれのテーブル要素、ここではテーブル要素１２に取付けられる（図２及び図３参照）。第１関節１８のためのジャーナル様係合部３６は、テーブル要素１２の角部にあるＵ字形状の凹部３６に配置され、一方第３関節２２のための他の係合部３６は、近傍に突き出たテーブル要素１２の他の角部にある、ある角度を有する凹部に同様に配置される。第１関節１８の係合部３６は、特に第１枢動軸１４の範囲内を延び、また第３関節２２の係合部３６は、他の第２枢動軸１６の一部である。テーブル要素１０及び１２が図２に示す位置に配置されるときは、第１関節１８の係合部３６について枢動動作が行われ、また図３に示すように傾斜位置に配置されるときは、第３関節２２のジャーナル様係合部３６についてテーブル要素１０の枢動動作が行われる。第２関節２０は、関連する枢動又は傾斜動作に従うマルチジョイントとして作製される。